



福島

おいしさの理由は「物語」にある  
多くの人に支えられた  
新しいいわきワインの「物語」

いわきワイナリー

いわきワイナリー（福島県いわき市好間町上好間字田代、今野隆理事長、0246・27・0007、<http://iwakiwinery.com>）は、平成21年に、ハンディキャップを背負った人たちの自立をワインづくりで支援するべく設立された特定非営利活動法人みどりの杜福祉会が元である。

平成22年に、就労継続支援B型事業所「就労支援センター未来工房」の開所式でマスカットベリーAやメルローなどのワイン用ぶどうを好間農園に定植した。翌年、東日本大震災が襲った。メンバーの県外避



震災を乗り越え、平成27年秋に本格始動した「いわきワイナリー」



ワイナリーで行われるぶどうの収穫祭にも、大勢の人たちが集まるようになった

難・断水・原発事故後の立ち入り禁止：雑草が樹を覆い尽くし、開所前より試験栽培としてぶどう栽培をしていた広野農園でのぶどう栽培は諦めることとなった。

事業所の存続も危ういと感じ、屋内で作業を行うことができる宅配弁当未来キッチンを立ち上げた。農業も継続し、収穫物は放射能のスクリーニング検査を受けたのち、加工品として製造販売した。

そして、震災から1年半後、設立当初からの夢であったオリジナルワインづくりのために、好間農園にて再び本格的なぶどう栽培を開始する。平成25年秋、たくさんのぶどうを収穫でき、いわき初のワイナリーをめざす大きな一歩となった。収穫したぶどうで、山梨県勝沼にある東夢ワイナリー様ご協力のもと、平成26年2月、初めてのワインが完成した。マスカットベリーA単一品種のワイン「いわき夢ワイン2013」のお披露目である。

いわき市とも協議のうえ新たに立ち上げた「就労支援センター未来ファーム」が、本格的なワインづくりを担っている。平成27年2月、2つめのオリジナルワイン「いわき夢ワイン2014」が完成する。同年3月、「いわきワイナリー」の名称で果実酒製造免許を取得し、秋にはいわき産のぶどうをいわきの地で醸造する100%いわきのワイン造りが、本格始動した。

今年も、いわきのおいしいワインがタンクで熟成され、今か今かと瓶詰されるのを待っている。